



住友金属鉱山株式会社 事業概要

- ・ 銘柄略称：住友鉱（東証1部）
- ・ 銘柄コード：5713
- ・ 単元株式数：100株



<https://www.smm.co.jp/>



会社概要

創業 **1590**年 **日本の上場企業で2番目に長い歴史**

業績（2020年度実績）

売上高 **9,261**億円

税引前利益 **1,234**億円

当期利益 **987**億円

連結従業員数 **7,072**名

時価総額 **1兆2,000**億円 （2021年9月1日時点）

財務体質（2020年度末実績）

資産合計 **1兆8,860**億円

資本合計 **1兆2,230**億円

自己資本比率 **59.1**%

住友金属鉱山の3つのコアビジネス



住友金属鉱山の歴史①

写真提供：住友史料館

製錬

1590年（天正18年）創業



1500年

1600年

1700年

1800年



1691年

資源

別子銅山の稼行開始

1973年の閉山まで
283年間 住友が運営

住友金属鉱山の歴史②

1960年代～
国内鉱山閉山
経営多角化

材料

1900年

2000年～

1999年
JCO臨界事故

企業再生計画を
策定し再出発

本業回帰・成長戦略の推進

積極的な海外鉱山の権益取得
フィリピンでのニッケル製錬所建設
車載用電池正極材のリーディングカンパニーに



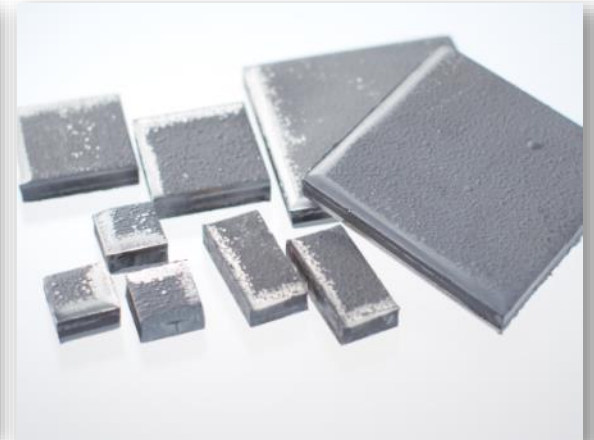
住友金属鉱山が生産する非鉄金属（メタル）



電気銅



金



電気ニッケル



硫酸ニッケル



電気コバルト

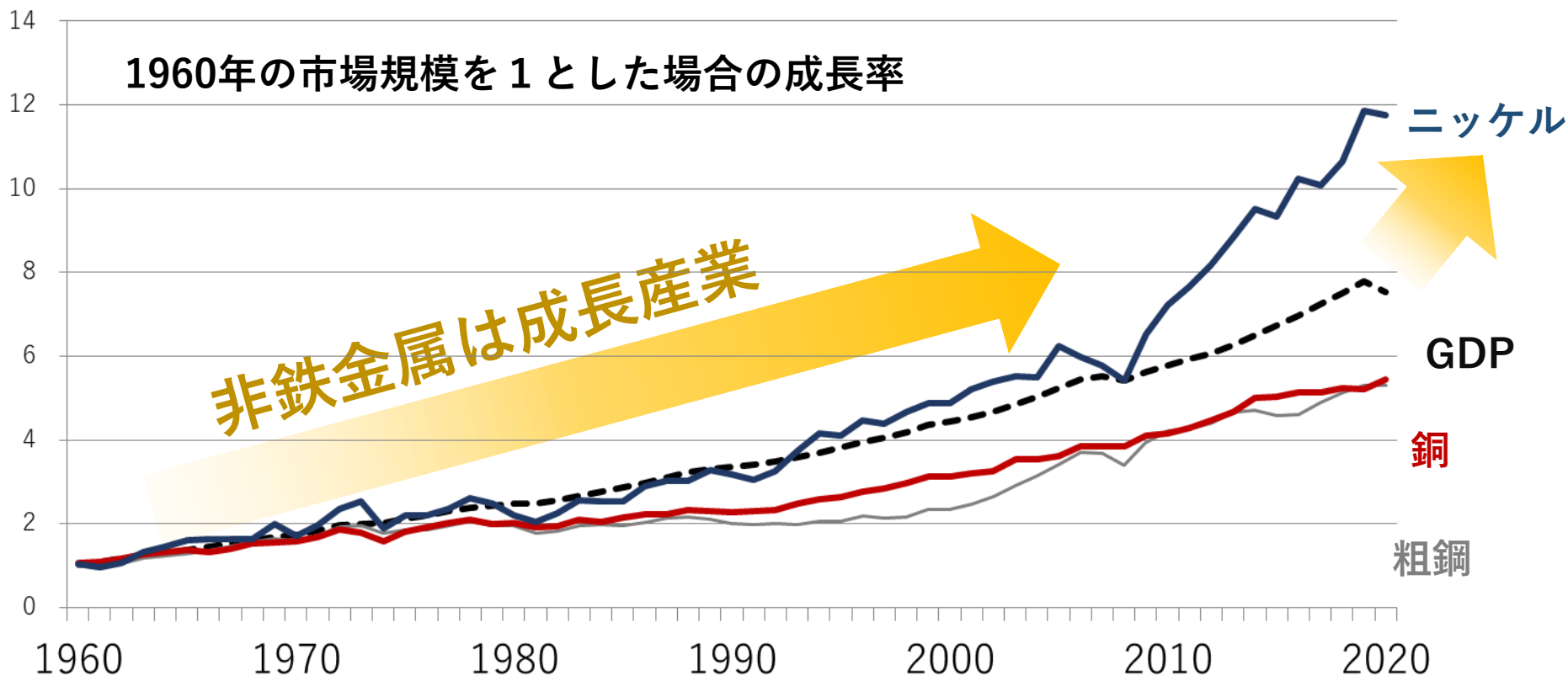


フェロニッケル

非鉄金属市場の規模と成長性

銅の年間市場規模：約2,500万トン

ニッケルの年間市場規模：約240万トン



- ・ 2020年はコロナ影響で需要減
- ・ 自動車電動化の急速化に伴い、電装部品向けの銅、電池正極材に使用されるニッケルの需要増加が見込まれる

住友金属鉱山の資源事業のあゆみ

1691年～1973年

別子銅山



1985年～

菱刈鉱山



1986年～

海外鉱山



菱刈鉱山

世界トップレベルの高品位、豊富な埋蔵量を誇る金鉱山
高い収益力で長期安定的に当社経営に貢献

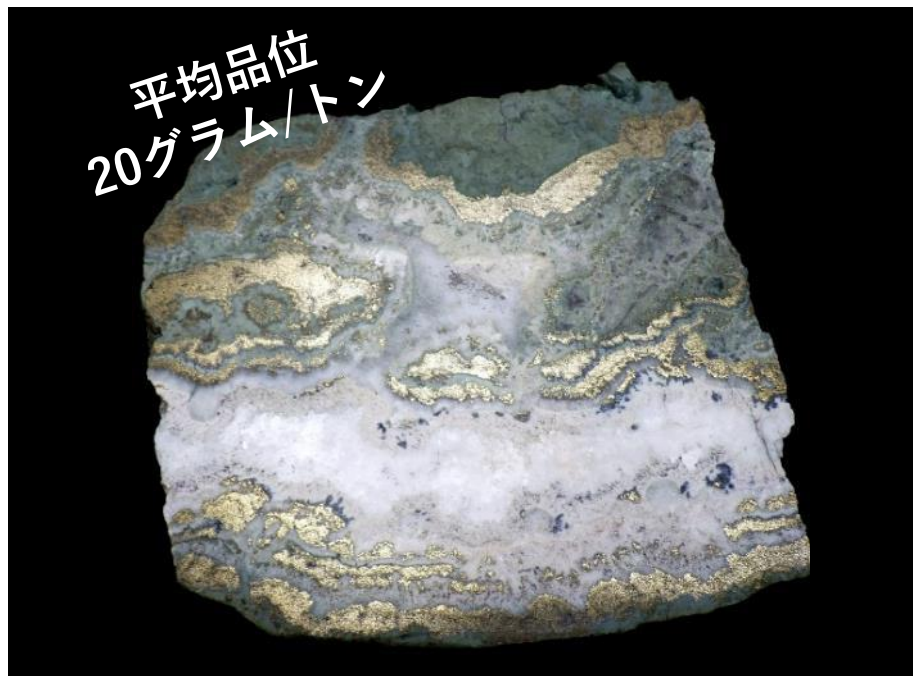


豊富な金埋蔵量：159トン

(2020年12月末時点)

Au
金

平均品位
20グラム/トン



- ・所在地：鹿児島県伊佐市
- ・1985年開山
- ・当社権益比率 100%

海外銅鉱山

Cu
銅

北米・南米・オーストラリアに
7つの銅鉱山の権益を保有

高いコスト競争力、豊富な資源量を有する
銅鉱山の権益を保有

モレンシー銅鉱山（アメリカ）

住友金属鉱山の製錬事業のあゆみ

創業

1590年

銅製錬

1939年

ニッケル
製錬

2005年

HPAL

※HPAL : High Pressure Acid Leach 高压硫酸浸出



世界トップクラス

世界最大級の単一自熔炉、
高いコスト競争力を有する銅製錬所

Cu
銅



東予工場（愛媛県）



日本で唯一

電気ニッケル/電気コバルトを生産

ニッケル工場（愛媛県）



生産性・コスト競争力の高いMCLE（マット塩素浸出電解採取）法

世界に先駆け
実用化に成功

High Pressure Acid Leach (HPAL)
高圧硫酸浸出

Ni
ニッケル



コーラルベイニッケル社
(フィリピン)



タガニートHPALニッケル社
(フィリピン)

- ・それまで利用できなかった低品位の酸化鉱からニッケルを回収する技術
- ・限りある鉱物資源の活用に貢献

住友金属鉱山の材料事業のあゆみ

1960年代～

電子材料事業
に進出

1990年代～

電池材料
生産開始

現在

電池材料
増強中



カーボンニュートラルの動きと材料事業



車載電池向け正極材 スマートフォン向け
結晶材料



機能性インク
(近赤外線吸収材料)



コンデンサ向け
ペースト

カーボンニュートラルへの動き

- ・ 自動車の電動化
- デジタル社会の高度化
- ・ スマートフォン5G化
- ・ 車載電子部品の増加
- ・ IoTの進化



高機能材料の需要は
大幅に増加

今後も成長が見込まれる
車載用電池向け正極材で

世界シェアトップクラス



ニッケル系正極材

リチウムイオン電池



電気自動車

ニッケル水素電池



ハイブリッド自動車

鉱石から電池材料まで
一貫した

自社ニッケルサプライチェーン

鉱石



中間原料



メタル



電池材料



鉱石資源から
原料確保



低品位ニッケル
鉱石をHPAL技術
で製錬



硫酸ニッケル
に加工



正極材
に加工

世界でも類を見ない独自のビジネスモデル

長期ビジョン

(2019年2月に発表した「2018年中期経営計画」で策定)

「世界の非鉄リーダー」を目指す

〈ターゲット〉



ニッケル

生産量
15万トン/年



銅

権益分生産量
30万トン/年



金

優良権益獲得による
鉱山オペレーションへの
新規参画



材料

ポートフォリオ経営による
税引前利益250億円/年の実現

当期利益 1,500億円

成長に向け三大プロジェクトを推進

三大プロジェクト①

ケブラダ・ブランカ2プロジェクト（チリ、銅鉱山）

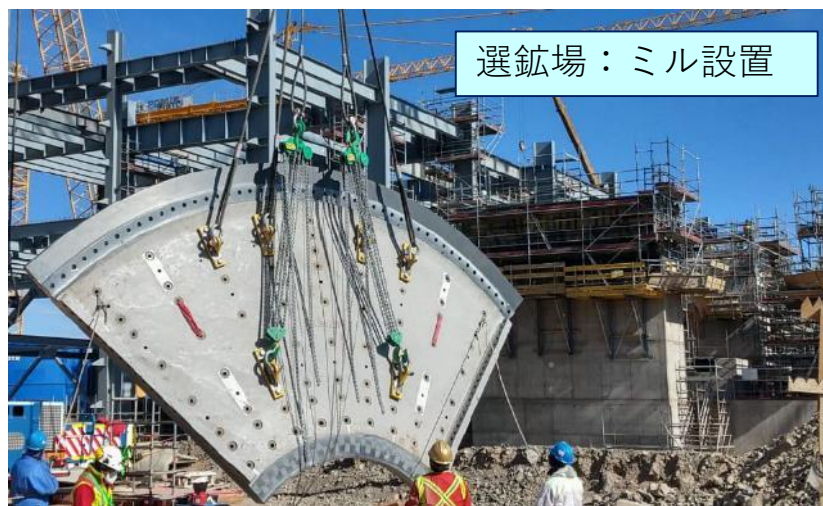
◆ 2018年12月 参入決定 （当社権益25%）

- 2022年後半に建設完了、生産開始予定
- **年間生産量 銅24万トン/年** （2018年発表値）
- プロジェクト現地で10,000人程度を動員
- 今年4月にプロジェクト全体進捗の中間点を突破

パイプライン沿線送電線網、変電所建設



選鉱場：ミル設置



三大プロジェクト②

ポマラプロジェクト（インドネシア、ニッケル）

早期に投資意思決定できるよう、
手続き・協議を継続

当社として第3のHPALニッケル製錬所
をインドネシアに建設

- 4万トン/年（ニッケル量）の生産を見込む
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、必要な許認可取得やパートナーとの協議に時間を要している状況。



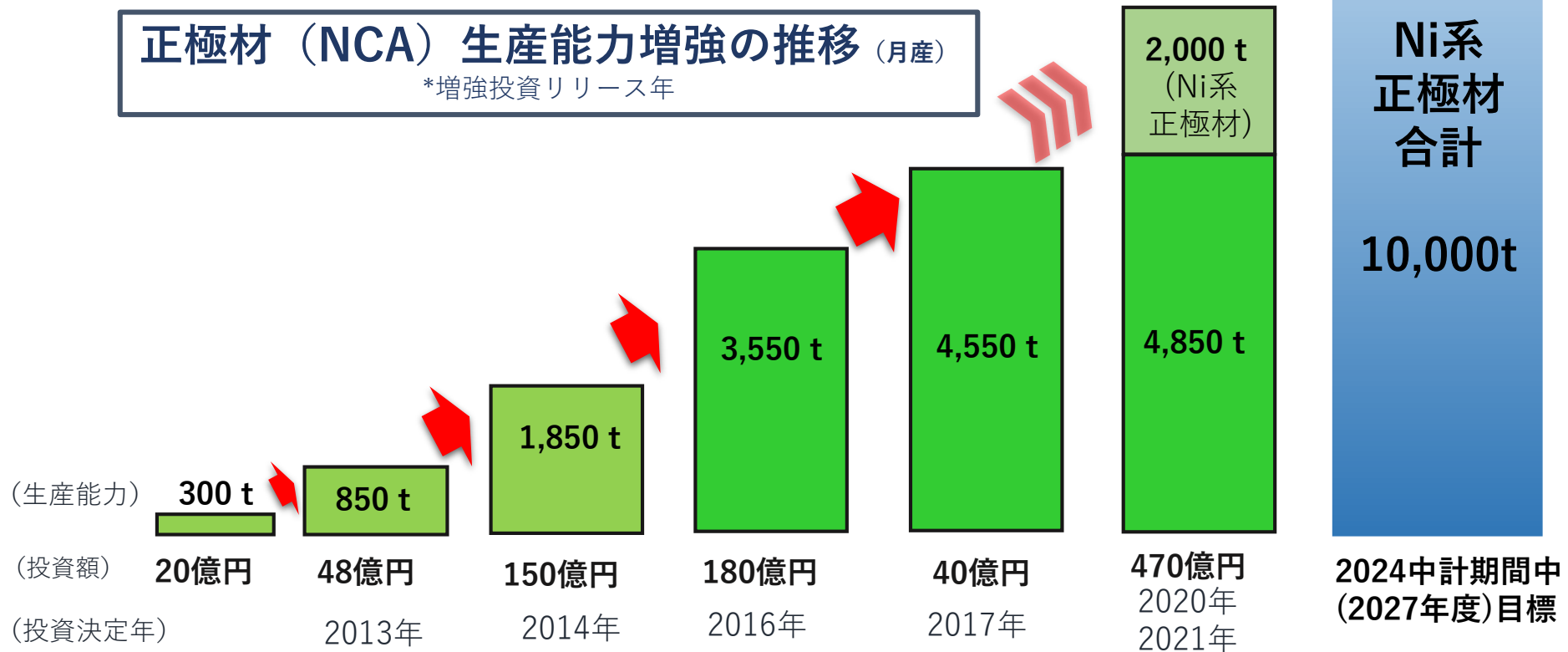
操業開始予定：2020 年代後半

三大プロジェクト③

電池材料の成長戦略

正極材（NCA）生産能力増強の推移（月産）

*増強投資リリース年



カーボンニュートラルの動きの中で車載用電池の需要急増
2021年7月に**2,000tの増産投資**を決定 さらなる増産を検討していく

CSR：受け継がれる「住友の事業精神」

当社事業の創業以来引き継がれてきた事業精神

[第1条] わが住友の営業は**信用を重んじ、確實を旨とし、**
もってその鞏固隆盛を期すべし

[第2条] わが住友の営業は**時勢の変遷理財の得失を計り、**
弛張興廃することあるべしといえども、
いやしくも浮利に趨り軽進すべからず

(昭和3年 住友合資会社社則「営業の要旨」より抜粋)

サステナビリティ

別子銅山から受け継がれる住友金属鉱山のCSR



「写真提供：住友史料館」

明治時代、植林前の別子銅山



「写真提供：住友林業株式会社」

現在の別子銅山

このまま別子の山を荒蕪するにまかしておくことは、天地の大道に背くのである。どうにかして濫伐のあとを償ひ、別子全山をあをあをとした姿にして、之を大自然にかへさねばならない。

—伊庭貞剛（第二代住友総理事）

サステナビリティ

別子銅山の精神を引き継ぐ活動

フィリピンにおける緑化活動

～尾鉱ダム（※）の環境保全・再生～

※尾鉱ダム：

HPALにおいて有価金属を回収した残渣を無害化し堆積しておく場所



コーラルベイニッケル社（CBNC）
タガニートHPAL社（THPAL）
2020年鉱物産業環境大統領賞
を受賞

サステナビリティ：フィリピンでの地域活動



尾鉱ダムの
リハビリテーション（植栽）
に使う植物の育成



地域住民への
無料診察プログラムを支援



地域の学校運営を支援

2030年のありたい姿

長期ビジョン「世界の非鉄リーダー」を
実現するための2030年時点でのマイルストーン



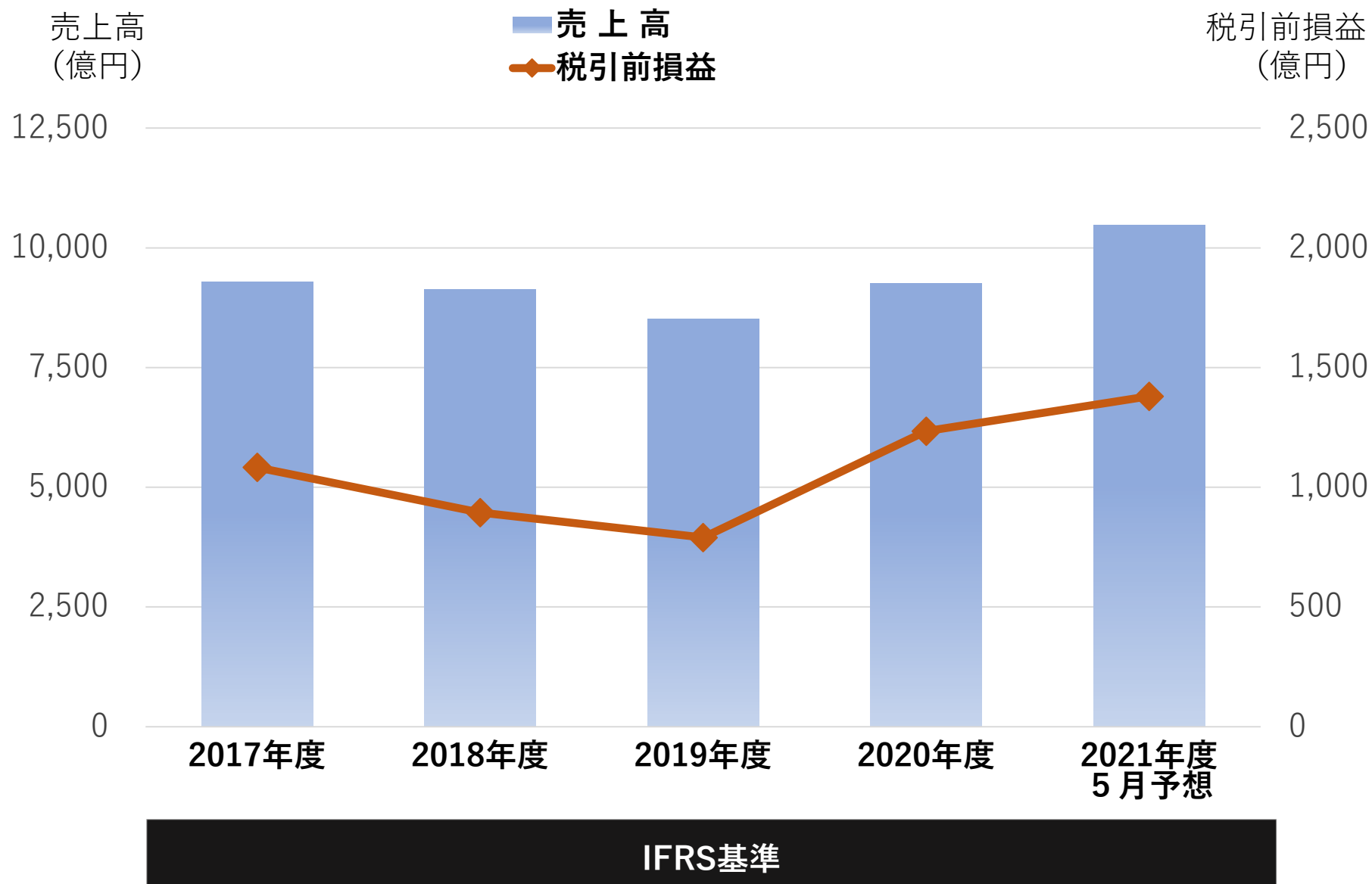
統合報告書

経営ビジョン、事業戦略、CSR活動を詳しくご紹介

<https://www.smm.co.jp/ir/library/annual/>



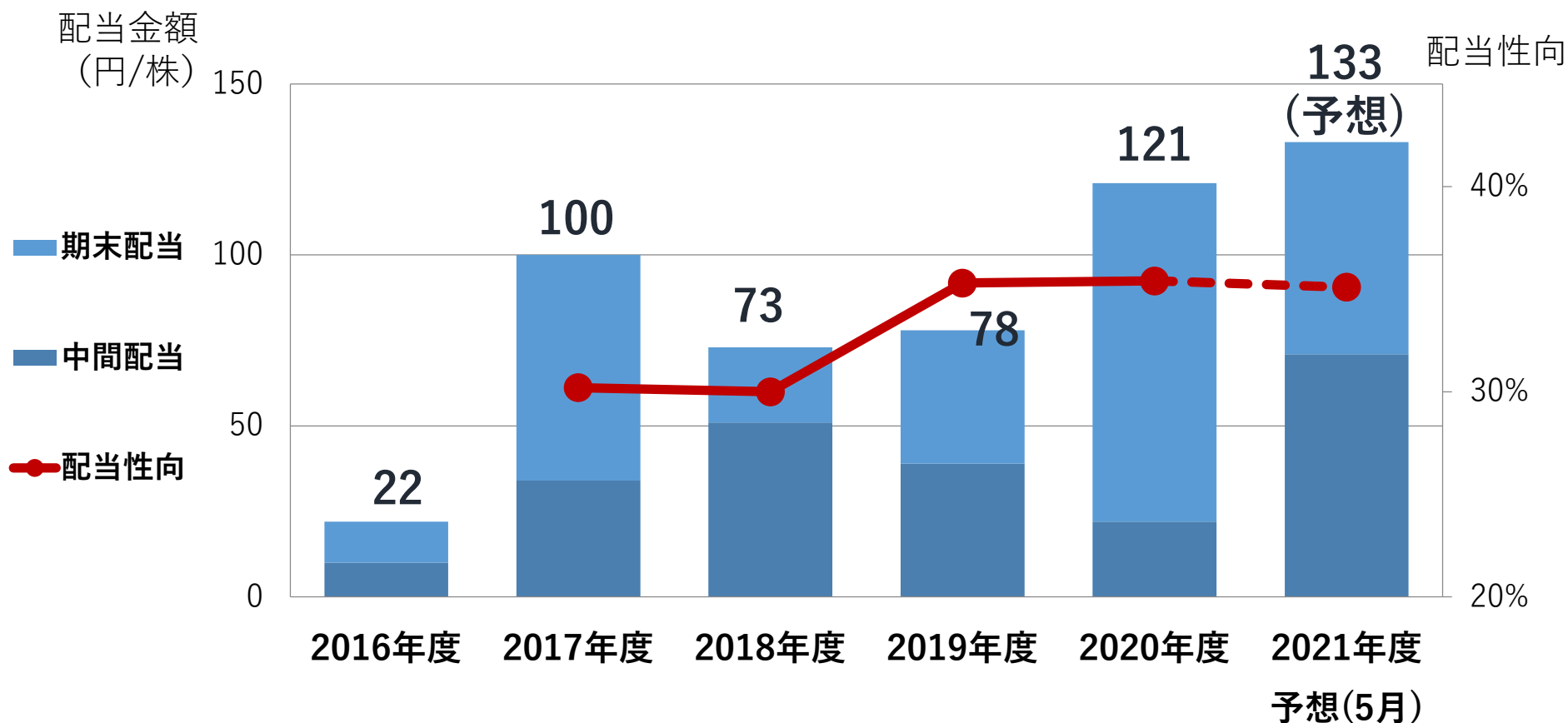
業績推移



配当情報

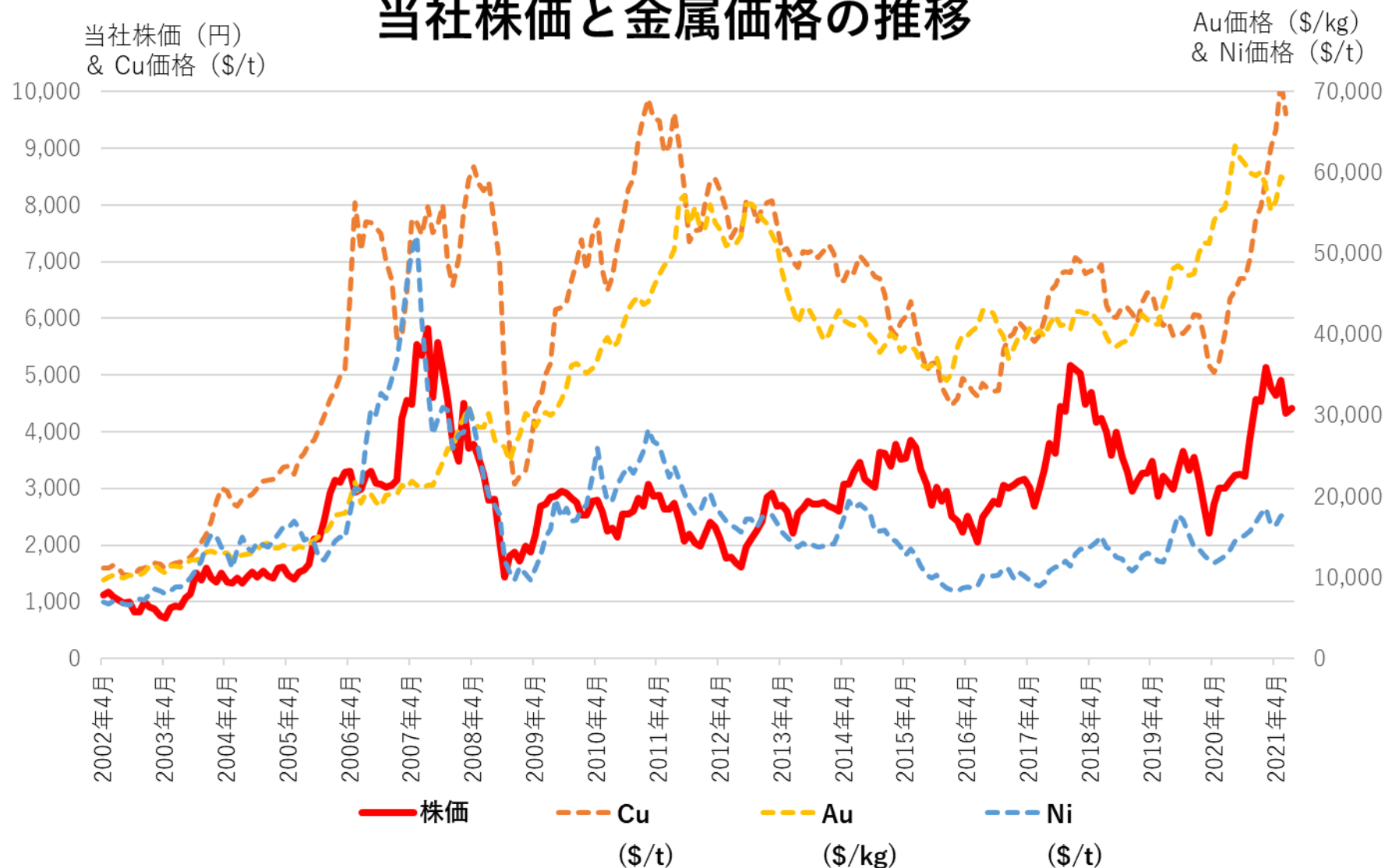
< 配当方針 >

- ・業績連動に基づく配当
- ・連結配当性向は、**35%以上**
(2019年度から従来の30%より引き上げ)



株価推移

当社株価と金属価格の推移



株式情報

決算日	3月31日
定時株主総会	6月
上場証券取引所	東京（東証 1 部）
業種	非鉄金属
証券コード	5713
株式売買単位	100株
株式の状況	発行可能株式総数：500,000,000株 発行済株式の総数：290,814,015株

株価	4,225円/株（2021年9月1日 終値）
時価総額（※）	1兆2,286億円
配当利回り（※）	3.15%
PBR（※） 株価純資産倍率	1.00倍
PER（※） 株価収益率	11.16倍
EPS（※） 1株当たり当期純利益	378.49円

※業績、配当は2021年5月発表予想値、株価は2021年9月1日終値に基づき算定



MINING THE FUTURE

【お問合せ先】

広報IR部：03-3436-7705

ウェブサイトお問合せフォーム：<https://www.smm.co.jp/contact/>